

〈デザイン〉が累積するこの世界を読み解く ——桓武天皇と市電と、わたしの庭の一輪の花

北 雄介

概要

本講演では、この複雑な世界において「いかにデザインすべきか」ではなく、まず「いかに世界が成り立っているか」について考えてみたい。

自宅の庭に、花を一輪植えることは「デザイン」であろうか。戦争の方略を立てることは—？ デザインとそうでないものの境界線は、多くの論者の議論を経てなお、定まっていない。本講演では、デザインをウィトゲンシュタインの言う家族的類似性によってゆるやかに連関する多様な行為群として捉え、これを〈デザイン〉と呼ぶこととする。すると我々の世界は、多様な〈デザイン〉とその帰結が、時間的・空間的に折り重なったものとしてあらわれる。このような視座から、世界と我々人間との関係を問い直す。

略歴



1982年兵庫県生まれ。2012年、京都大学にて博士（工学）を取得し、京都大学特定助教・特定講師を経て、現在、長岡造形大学造形学部建築・環境デザイン学科准教授。専門分野は都市と集落の様相論、フィールドワーク、デザインプロセス論。主な著書に『街歩きと都市の様相—空間体験の全体性を読み解く』（京都大学学術出版会、2023年。日本認知科学会第11回野島久雄賞および第46回国際交通安全学会賞著作部門を受賞）。